蛇の花嫁

大手拓次

しろきもの

しろきもの
ゆくりなく　心のうへをただよへり
ながるるひまもなく
あはきがなかに　なほあはき
かすかなる　鳥の啼音（なきね）のつらなれり

ほのあをき貝

ほのあをき貝をもて
わがただよへる心を　をさめよ
らうたけし　ほのあをき貝をもて
わがかなしみを　をさめよ

相見ざる日

こころ　おもくして
うなだれてのみ　あるものを

身をつつむ　ひぐらし色のこゑ

さだかならぬ姿

ありなしの　すがたなればや
きみみえず
うすきひかりの　ながれきて
わがながしめを　よびいづる

うたの心

あめは　こずゑのなかにあり
うたはざる　歌のこころの
ゆふぐれに　ときめけり

秋の日はうすくして

秋の日は　うすくして
衣に透(す)けり

秋の日は
みえざるごとく　とほくして
思ひのかげを　うごかせり

二人静

汝（な）がこゑは
月の夜（よ）にゆるる
二人静（ふたりしづか）のはな

心のかげのこゑ

ただよひゆくもの
わが心のなかに
ただよひゆくは
ゆふぐれのひかりをあびて　おとづるる
汝（な）がこころの　かげのこゑ

ゆめ

いづことも　わかねども
そのかたち　わすれがたかり
そのいろの　わすれがたかり

*

あはあはと　にほひのこれば
絶えせざる　おもひはるけし

遠く思はるる日

汝がすがた　とほくして
空にうつれる葉のごとく
さびしさは　わが胸に波をうがてり

すぎし影

病めるとき
心のなかにすぎゆきし

かげともあらぬ　影のかげ
その　すぎゆきしにほひをば
ひそかに　ひそかに
はぐくめり

ゆふぐれ

みぞれするかや
このゆふぐれの日に

こゑもなく
ひとびとの　行き交へり

しめらへる花

くれなゐの
花のさきけり
夜の潮　みちくるときに
しめらひの花の
ひとつさきけり

あをき影

あはれ　あはれ
眼はとざされて　みづにかくれし
なにものも　みえわかず
ひとつ　ひとつ　あをき影あり

しろき花

むなしき　おゆびもて
まさぐれば
しろき花　ゆるるがごとし
暮れなやむ　ゆふぐれのとき

ともしびの揺れの如く

とほき影の　つながりて
この　あしたの空につたはりくる

きえがての思ひ　うごきぬ
ともしびの
たわわなる　ゆれのごとくに

悲しみは去らず

かなしみは　かなたへ去らず
日影のごとく　うつろへど
はてしなき　いのちのなかに　たそがるる

水に浮く花

みづのなかに　うかべる花
こゑをはなてり

あをきまぼろし

かぎりなく　ひろごりゆく
あをき手のまぼろし

あをき手のまぼろし
げにもさみしき
あをきまぼろし
うつつなき　花をうがちて
こころむなしく　しらべをおとす

小鳥の如き溜息

ほのほは　あをき水にぬれ
かたちを消して

そことなく　みだれつつあり
ああ　しろき小鳥のごとき溜息は
時の彼方(かなた)に　たたずめり

千鳥ぞ啼けり

わが胸に　千鳥ぞ啼けり
このゆふぐれに
きみのけはひの　ちかければ

ふたたび見むことを

ああ
ふたたび汝（なれ）を見むことを
せちにねがへり

かの秋の日の
芙蓉に似たるすがたをば
ふたたび　われにみせよかし

ながあめに　ぬれてうなだるる　しだり花かも
かよわなる　汝（な）がおもだちよ
みづいろあをの　かほばせよ
ふたたび汝（なれ）をみむことを

過ぐるもの

あたたかき　秋の日のゆふべなり
こころは　石のうへにすわりて

とどめがたきものの　すぐるをききわけつ
おもてをふせて
掌（て）のなかに　夢をゑがきぬ
しろき夢を

ひとつの花

こずゑのうへに
ひとつの花あり
そのいろは　あはくして

ひかりのごとく
地にむかひて　うなだれたり

　　春のあをさに

ひらかざる　花のおもわに身をなげて
このながながし　病気（いたつき）の
なやみの刺（とげ）をぬぎすてむ
薄氷（うすらひ）の溶くる春のあをさに

白き芥子の花

わがおもひのいづみ
かのひとは　しろき芥子(けし)の花のごとく
ひとすぢの　みちのうへにうかべり
はてしなきゆふべの　つながりきたる
ひとすぢの
いとほそき　みちのうへに　にほひつつあり

さびしさ

みしらざる　にほひの花よ
いづこにありや
ついばみの鳥　あらざるまへに
みしらざる　にほひの花よ

真実

汝がほのかなる　ことのはを

われはきく
もゆる火のごとく

形なき影をもとめて

かたちなき　かげをもとめて
さだめなく　暮るるならむか
みちのべに　雨はあり
みちのべに　みぞれあり

汝がこゑの美しさ

汝(な)がこゑの　したたる露
汝がこゑの　ただよふ香(にほひ)
汝がこゑの　ゆらめくひかり
汝がこゑの　ひらく花びら
汝がこゑの　ちらばふ星
汝がこゑの　こぼるる蜜
汝がこゑの　くれなゐのつぼみの瓊(たま)
汝がこゑの　みどりの風

汝がこゑの　春の糸雨(いとさめ)

汝がこゑの　銀(ぎん)色の衣(きぬ)ずれ

汝がこゑの　いぢらしき君影草(きみかげさう)

汝がこゑの　夢をつつむ雛罌粟(ひなげし)の花

汝がこゑの　黄(き)色の耳飾り

汝がこゑの　宵のくちべに

汝がこゑの　水面(みのも)の浮鳥

汝がこゑの　揚羽の蝶の朝の舞

汝がこゑの　水晶色の鈴のおとづれ

汝がこゑの　うすあをき月草の物思ひ

汝がこゑの　うまるる雛鳩

汝がこゑの
雪色の　心のこゑのうるはしさ

うまれざる花

うまれざる花を
われは抱（いだ）けり
こころ　しぐれのなかに
にほひをおぼゆ

小虫のごとく

日は　はれたれど
こころは　くさむらの小虫のごとく
ひたに　かくれぬ
小虫のごとく　小虫のごとく
なみだ　ながしぬ

底本：「世界の詩　28　大手拓次詩集」彌生書房
　　　１９６５（昭和40）年10月25日初版発行
　　　１９８１（昭和56）年６月５日７版発行
入力：湯地光弘
校正：瀬戸さえ子
１９９９年９月30日公開
２００５年11月29日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。